

第2章

全体構想

1. 都市づくりの基本理念
2. 将来都市像
3. 将来都市構造
4. 分野別都市づくり方針

第2章

全体構想

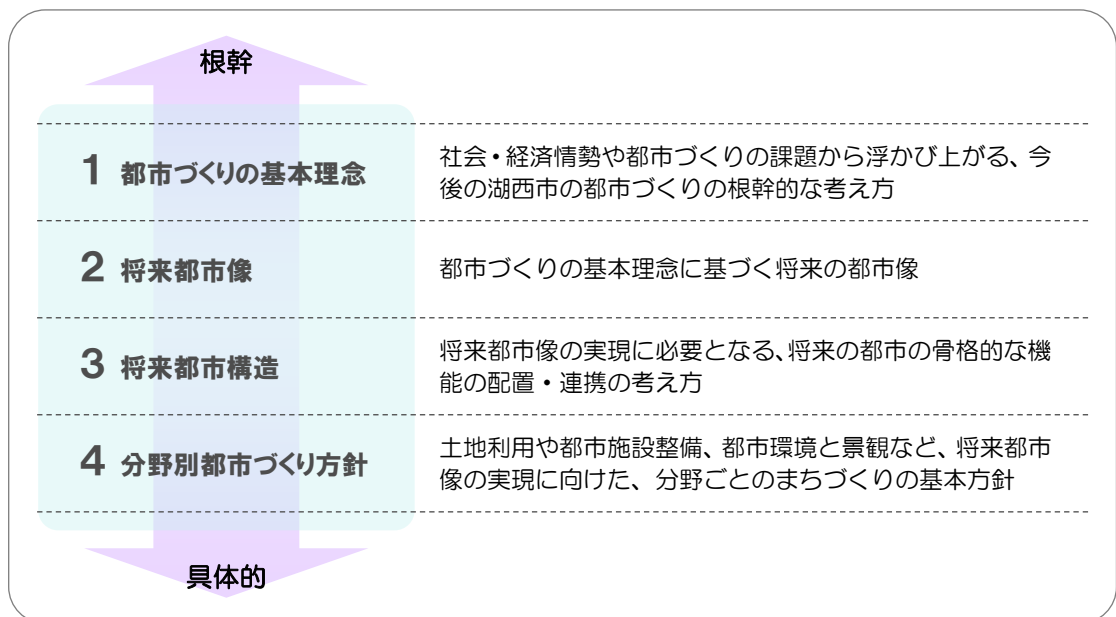
○「全体構想」のねらい・構成

「全体構想」は、近年の社会・経済情勢に加え、本市の現状や将来に対する市民の意向などから導かれたまちづくりの課題を踏まえた上で、今後の本市のまちづくりの考え方を全市的・長期的な観点で定めたものです。

まちには、さまざまな人が暮らし、働き、訪れます。このような中でまちづくりを進めていくためには、まちに関わるすべての人が、本市が目指すまちの姿やまちづくりの目標について理解し、共有することが望まれます。

そのため、全体構想は、将来の本市のまちづくりの考え方について段階的に理解を深めることができるよう、根幹的な考え方から具体的な考え方へと移行していくような構成にしています。

（全体構想の構成と各項目の概要）



全体構想の体系図

1. 都市づくりの 基本理念

基本理念①

「職住近接」による持続可能な集約・連携型都市の構築

基本理念②

産業の集積と連携により新たな価値と活力を創造する都市の構築

基本理念③

災害の最小化と迅速な復興による安心して暮らせる都市の構築

基本理念④

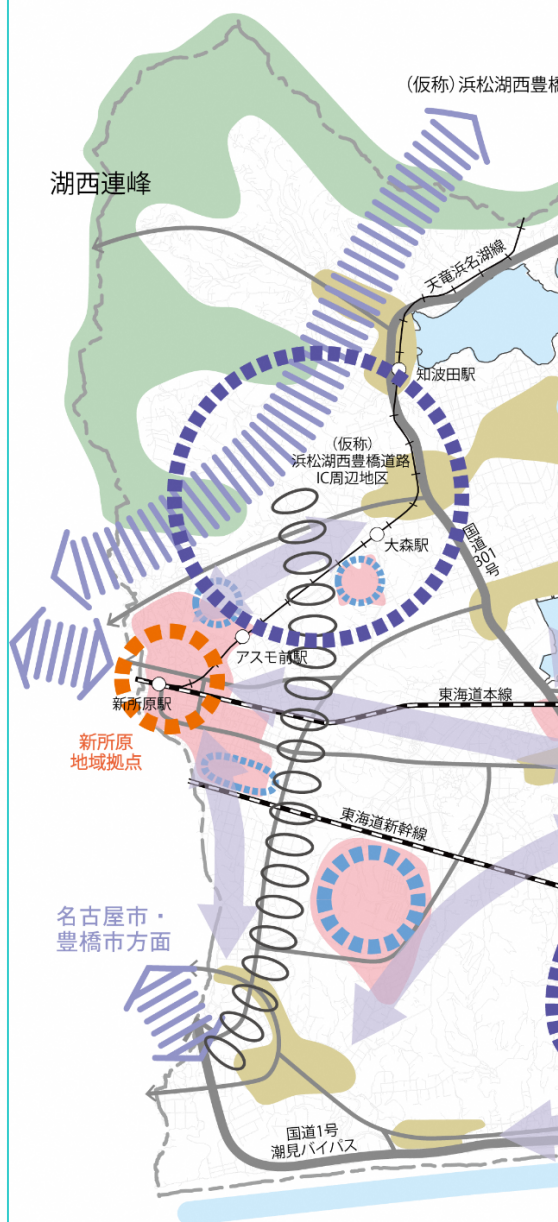
豊かな自然や歴史などの地域資源を活用した都市の構築

2. 将来都市像

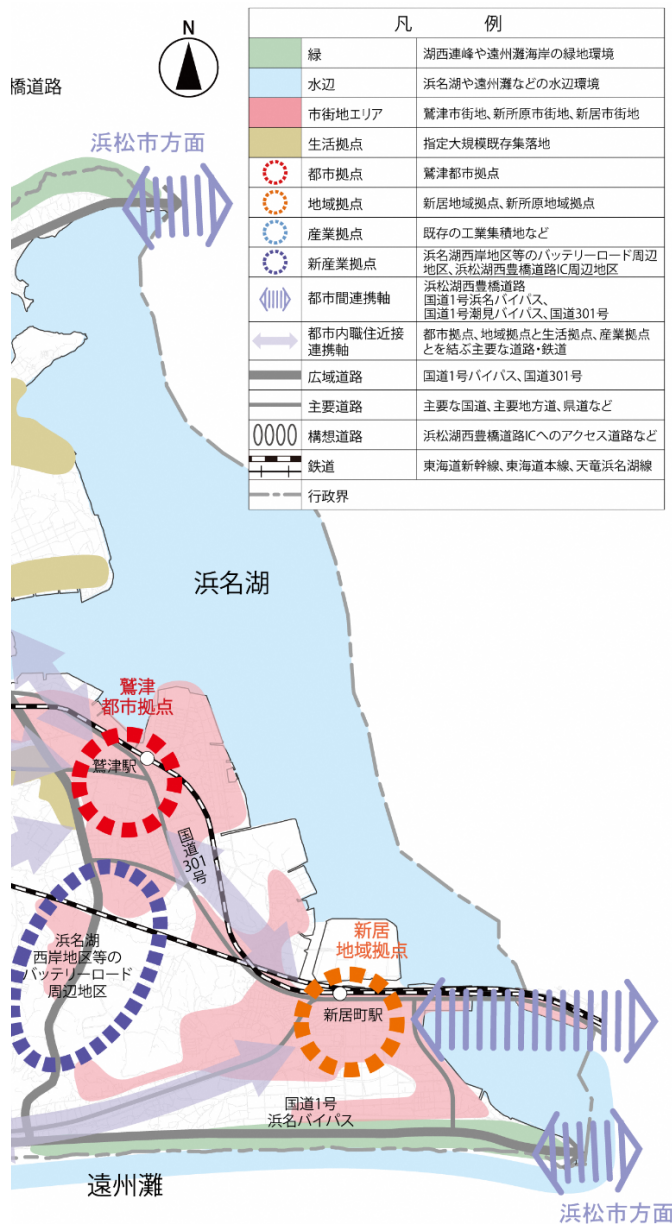
「産業活力」と「職住近接」により
持続可能な発展を目指す都市
湖西

3. 湖西市が目指す

湖西市が目指す
集約・連携



将来都市構造

目指す将来都市構造
モデル型の都市構造

4. 分野別都市づくり方針

4-1 土地利用の基本方針

- (1) 市街化区域の
土地利用の基本方針
(住居系、商業系、工業系、
その他)
- (2) 市街化調整区域の
土地利用の基本方針

4-2 都市施設整備の基本方針

- (1) 都市交通体系の整備方針
(道路交通体系、公共交通体系、
移動空間)
- (2) 公園の整備方針
- (3) その他都市施設の整備方針
(下水道、斎場、ごみ焼却場)

4-3 都市環境と景観の基本方針

- (1) 緑地環境の保全・創出
(都市の骨格となる緑地環境、
生活に身近な緑地環境)
- (2) 良好な景観の保全・形成
(湖西市ならではの景観、
都市拠点のまち並み景観、
生活景観、
地域資源を活かした景観)
- (3) 環境負荷の軽減

4-4 都市防災の基本方針

- (1) 自然災害に備えた
くらし環境の創出
(地震津波対策、治水対策、
土砂災害)
- (2) 防災指針の策定
- (3) 事前都市復興計画の策定

注) バッテリーロード：(都) 大倉戸茶屋松線のうち、国道1号浜名バイパス大倉戸ICから(都) 谷上大沢線との交差点までの通称

1. 都市づくりの基本理念

基本理念①

「職住近接」による持続可能な集約・連携型都市の構築

●市街地における良好な住宅地の創出

東海道本線の各駅の周辺では、市街地環境の整備が進められてきました。今後は、都市機能の充実に加え、子育て世帯や高齢者世帯など、居住世帯のニーズに対応した質の高い良好な住宅の立地により定住と交流を促進し、誰もが安心して快適・便利に暮らし続けることのできる、活力ある都市を構築します。

また、市街地内の未利用地や、今後増加が想定される空き地、空き家を活用するなどして、市街地の密度を高め、都市機能と居住の集積を図ります。

本市は、多くの製造業が立地する県内でも有数の産業都市であることから、近隣都市から多くの就業者が流入してきています。このような市外から通勤してくる就業者が本市の未来を担う新たな活力となるよう、職場が近く便利で快適な居住環境の創出を図り、職住近接による定住化を促進します。

●郊外の地域活力を向上する住宅地の創出

本市の郊外部には大規模な既存集落地が形成されていますが、人口・世帯数の減少や少子高齢化の進行を背景に、地域活力の低下が懸念されています。このため、既存集落地を中心とする地域では、緑豊かな自然環境やのどかな営農風景と調和・共生した落ち着いたある居住環境を創出し、地域コミュニティ・地域活力の向上を図ります。

●市内の拠点間ネットワークの強化

誰もが、いつでも、既存の市街地や生活拠点から都市拠点や地域拠点、産業拠点到円滑かつ安全に移動できる道路網や公共交通網をより強化していきます。

湖西市が提案する「職住近接」とは

「職住近接」は一般的に、職場と住居との距離が近いことを指します。職場と住居が近いことで通勤時間を短縮することができ、そうして生まれた時間を、家族との時間や趣味の時間に充てられるなど、ゆとりあるライフスタイルが実現できます。

湖西市が考える「職住近接」では、余暇時間を増やす効果に加えて、住環境の整備や移住定住促進策を講じることで市外から数多く通勤する方々の転入を促進し、人口増加も図ります。特に、立地適正化計画で定める居住誘導区域への転入を促進することでコンパクトで持続可能なまちづくりを目指します。

基本理念②

産業の集積と連携により新たな価値と活力を創造する都市の構築

●産業の活性化

本市は、県内でも有数の産業都市であり、製造品出荷額等は常に上位に位置しています。特に、輸送用機械器具製造業と電気機械器具製造業は本市の基幹産業として立地・集積が進んでおり、これらの製造品出荷額は市全体の出荷額の9割以上を占めています。

今後も、製造業をはじめとする既存産業の集積を維持するとともに、新たな企業立地を促進し、浜松市や東三河地域、南信地域など、広域圏での交流・連携を深め、本市の産業活力が維持・向上する都市を構築します。

●高い付加価値を創造する産業の立地促進

本市には、ハイブリッド車や電気自動車の車載用蓄電池など、カーボンニュートラルに貢献し、次世代モビリティを支える次世代自動車関連産業等が集積しています。

今後も、こうした地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域に経済的効果をもたらす分野の産業立地を促進する都市づくりを進めていきます。

●農林漁業と連携した新たな産業の創出

農林漁業との健全な調和を図りつつ、都市の活力の向上を図っていくためには、特色ある農水産物や美しい農村景観などの地域資源を活用して、農林漁業と商工業、観光業も含めた産業全体の連携を促進し、地域の稼ぐ力の好循環を生み出す都市づくりを展開していきます。

基本理念③

災害の最小化と迅速な復興による安心して暮らせる都市の構築

●あらゆる自然災害に備えた安全で安心なくらし環境の創出

本市では、甚大な被害が想定されている地震・津波被害や、近年、激甚化かつ頻発化している豪雨災害や土砂災害など、あらゆる自然災害に対し、市民の生命・財産を守るため、ハード・ソフト両面での防災・減災対策を積極的に進め、安全で安心して暮らし続けることのできる都市を構築します。

●大規模災害に備えた事前復興の準備

南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模地震により、延焼火災や津波被害が発生した場合は、長期間に渡って都市機能が麻痺する状態に陥る恐れがあります。被災後は早期の生活再建のための速やかな復興が求められることから、防災・減災対策と並行して、事前に被災後のまちづくりを考え準備する取組を進めます。

基本理念④**豊かな自然や歴史などの地域資源を活用した都市の構築****●豊かな自然資源の保全・活用**

浜名湖や遠州灘の沿岸水景と、湖西連峰や里山等の緑は、市内を流れる河川により有機的に連携され、温室効果ガスの発生抑制や、都市の防災性の向上、レクリエーションや憩いの場の提供、野生生物の生息・生育環境の確保といった多面的機能を有しています。

これらの自然環境をグリーンインフラとして適切に整備・保全していくとともに、交流を促進する観光資源として活用し、自然に包まれ、自然と共生した都市を構築していきます。

●歴史資源の保全・活用

本市の歩みの一端を今に伝える文化財に指定されている貴重な歴史資源を保全し、交流を促進する観光資源として活用し、歴史を身近に感じる都市を構築します。

2. 将来都市像

都市づくりの基本理念を踏まえ、本市の将来都市像を以下のように定めます。

湖西市の将来都市像

「産業活力」と「職住近接」により

持続可能な発展を目指す都市 湖西

本市は、緑豊かな湖西連峰、雄大な浜名湖や遠州灘の良質な海浜景観を背景に、古代から人々が暮らしていた歴史のある都市です。その中に農水産業が活発に行われ、本市の発展基盤となった産業群が存在しています。

これらの個性的な自然・歴史資源の継承、また都市活力の源となる産業の発展とともに、鉄道駅周辺や街道沿いに生活圏が形成されてきました。

今後は、豊かな自然・歴史を守り、活かしながら、産業活力をさらに高めることに加え、魅力的なくらし環境の整備による職住近接の実現、さらには、災害に対する都市の安全性を高めることにより、誰もが湖西市に住みたい・住み続けたいと思えるような、持続可能な発展ができる都市の形成を目指します。

歴史資源の保全・活用



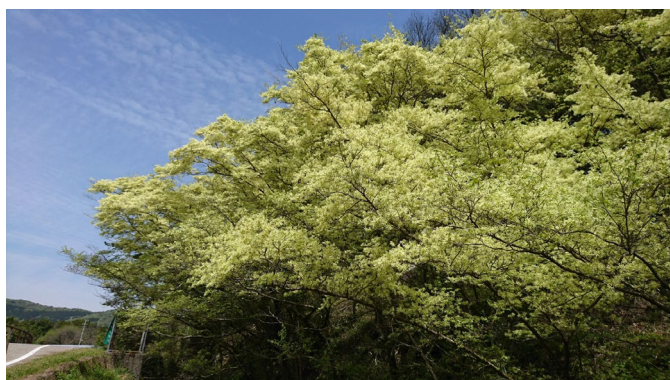
新居関跡

文化の継承



諏訪神社奉納煙火

豊かな自然



満開のトキワマンサク

活力ある産業



浜名湖西岸地区